

保健体育科

川口 寿恵

廣瀬 尋理

共同研究者 横山 剛士（金沢大学）

1. はじめに

本校は「新たな社会を見据えた探究的な活動に関する考察—新設教科『創造デザイン科』の提言及び各教科等との効果的な関わりを目指して—」の研究主題のもと研究を進めている。創造デザイン科とは、本校が令和3年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け、設置した科目で、総合的な学習の時間を創造性の育成に特化したものである。その創造デザイン科と保健体育科がどのように関わるができるか考えていく。

まずは、中学校の保健体育科と総合的な学習の時間のそれぞれの目標の比較をしたい。保健体育科の目標¹⁾は「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」である。総合的な学習の時間の目標²⁾は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」である。保健体育科の豊かなスポーツライフの実現を目指すことと、総合的な学習の時間の自己の生き方を考えていくことを目指すことは、広義に捉えると同様なものを目指しているといえる。またそのゴールに向かっていくプロセスとして、課題解決を行うことも両方の目標から読み取れる。

柴山³⁾は高等学校学習指導要領保健体育編の教科の目標で設定されている「運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」の内容は現代の創造性教育を表していると指摘している。小学校と中学校の学習指導要領でも同様の表現がなされていることから、学校教育における体育科、保健体育科では創造性教育につながる授業の実践が求められているといえる。

また、吉永⁴⁾は保健体育科の場合、ボール運動での「チームの特徴に応じた作戦を立てる学習」や表現運動での「題材に適した動きを創作する学習」など、身につけた力を活用する学習と自ら課題を見つけて課題解決する探究的な学習が統合的に行われることが多いと述べている。本校でも上記の学習活動を中心に探究的な活動を行い、保健体育科の探究的な活動と創造デザイン科の効果的な関わりを考えていきたい。

2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

生徒が創造デザイン科の各段階において必要だったと考える力（表1）を見ると、保健体育科の授業で担えるものが多い。その中で、今年度は特に「課題を発見する力」「合理的な解決に向けて思考し判断する力」の育成を目指した実践を行い、保健体育科の探究的な活動と創造デザイン科の効果的な関わりを考えていきたい。

表1 創造デザイン科の各段階において生徒が考える必要だった力

段階	「共感」「問題定義」	「創造」「プロトタイプ」	「テスト」
生徒が各段階において必要だったと考える力	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点から物事を見る力 ・コミュニケーション能力 ・計画を立てる力 ・問題や課題を見つけ、解決策考える力 ・アイデアを生み出す力 ・自分の意見を相手に伝え、話し合うことで、考えを広げる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力する力 ・計画を立て、積極的に構想する力 ・様々な視点から物事を見る力 ・問題を見つけ、具体的に解決すべき課題を設定する力 ・コミュニケーションを通して情報を収集する力 ・相手の気持ちを考えつつ話し合い、班の意見をまとめる力 ・自分たちが実現したいアイデアを考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を振り返り、問題や課題を見つける力 ・自分たちが行った活動を分かりやすく相手に伝える力 ・物事を客観的に見て、分かりやすいスライドを作る力 ・データや活動の結果から必要な情報を整理し、要点をまとめる力 ・活動の結果から結論を出すために、コミュニケーションをとる力 ・班のメンバーと話し合い、改善点を考える力

(2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

①第1学年「バスケットボール」

バスケットボールの授業では、はじめに、生徒が個人として課題を追求する場面を設け、次に、チームとして課題を追求する場面を設定することとした。

個人での課題追求の段階では、まず各自のドリブル・シュート・パス等の動きを録画したものと、参考になる動画等の資料を比較し、個々の生徒が自身の課題を見付け、次に取り組むべき練習の方法を考えられるようにする。その際には、具体的な練習方法を各自が設定し取り組むことができるよう支援をする。そしてその後、チームとしての課題追求の段階として、チームとしてのフォーメーションや動きを考えさせる。個人での課題追求と同様に、自チームの試合の動画と、参考となる動画等の資料とを比較しながら検証し、より良いチームプレイができるように課題を設定させる。その上で、その課題に応じた練習方法を考えられるよう支援をする。このように、課題設定、検証、振り返りを繰り返す学習を設定することにより、「課題を発見する力」や「合理的な解決に向けて思考し判断する力」を育成していきたい。

②第3学年「体づくり運動」

体づくり運動の時間に、自分自身の体力について新体力テストの結果を全国や県のデータと比較する。そこで自身の体力に対しての課題を見つけたり、部活動を引退した後に感じる体力の低下についても考えたりしながら、自分自身の体力を分析する。それを基に、自分自身で継続できる運動プログラムを作成する。また、運動プログラムを組み立てるときには、保健体育科の目標でもある健康の保持増進にも焦点を当てて考えさせ、授業で行うだけでなく、日々の生活の中で

続けられそうなプログラムづくりを目指す。プログラムを組み立てる際には、個人で自身の体力を分析し、その体力を高めるためにはどのような運動をすれば良いのかを組み立てる。それを基にペアやグループでプログラムの妥当性を検討するなかで「課題を発見する力」や「合理的な解決に向けて思考し判断する力」を育成していきたい。

3. 参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編，東山書房，p24（2018）
- 2) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総合的な学習の時間編，東山書房，p8（2018）
- 3) 柴山 慧：創造性教育としての体育授業を構想する 体育科教育，p51（2021）
- 4) 吉永 武史：体育科教育学入門，p123（2002）

1年 単元名「球技・バスケットボール」 単元計画（12時間）

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その動きに関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボールと操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。													
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。													
	学びに向かう人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。													
次	1	2			3							4			
時	1	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1			
学習の流れ	○オリエンテーション	○ボール操作の習得をする。 ・ハンドリング練習をする。 ・パス・ドリブル・ピボット練習をする。			○試合を通じて、ルールや審判法を理解する。 ・ルールと審判法の確認をする。 ・きょうだいチームで試合をする。 ○自チームの分析をして自チームの強みを理解する。 ・試合の動画を見て、自チームの分析をする。 ・試合を通して自チームの得意な攻撃パターンを確認する。 ○自チームの強みを意識した攻撃をする。 ・クラス内のリーグ戦をする。							○単元のまとめ			
		○3×3のゲームを通して、ルールを確認する。 ・ルールの確認をする。 ・試しのゲームをする。 ○空間を作り、走り込む動きを確認する。 ・自チームで空間を作る動きの確認をする。 ・自チームで空間に走り込む動きの確認をする。			○試合を分析し、作戦を立ててゲームをする。 ・ゲームの動画を活用し、チームの課題を明確化する。 ・チームと個人の実態に応じた練習を選択する。 ・課題を明確化するために比較・検証する。 ・ゲームの動画と作戦ボードを見返し、シュートに繋がった攻撃を分析する。 ○チームで考えた作戦を生かしてゲームをする。 ・全チーム総当たりのリーグ戦をする。										
評価機会	時	1	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	評価方法	
	知		①	①		②								総括的な評価	学習カード
	技				②			①					①		観察
	思						①		②	②	②				学習カード、観察
態	①	②						③	③	③	④		観察、学習カード		
単元の評価基準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②技術の名称や、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。													
	技	①試合の中で安定したボール操作ができる。 ②ゴール前の侵入のための空間作りや動きができる。													
	思	①話合いの場面で合意形成するための適切な関わり方を見つけている。 ②練習や試合を振り返り、新たな課題を発見し、他者に伝えようとしている。													
	態	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②安全に留意してプレイしようとしている。 ③作戦や戦術を決める話合いに積極的に参加しようとしている。 ④マナーを守り、フェアプレイを大切にしようとしている。													

単元目標	知識及び技能		体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。 イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。						
	思考力、判断力、表現力等		自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。						
	学びに向かう力、人間性等		体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。						
(学習過程)	時	1	2	3	4	5	6	7	授業づくりのポイント
	0	健康観察・準備運動・前時の振り返り・本時の目標							・生徒が必要感を感じてプログラムを作成できるよう指導する。 ・考えたことを実際やってみてわかったことや、他者からのアドバイスをもとに継続でき運動プログラムとなるよう指導する。
	10	オリエンテーション	運動プログラムを考えよう(授業編)	運動プログラムを考えよう(家編)	計画したプログラムを行う(授業編)	計画したプログラムを行う(家編)	改善プログラムの作成と修正	学習成果の発表	
	20	自分の体力の分析			プログラムの修正	プログラムの修正			
	30								
	40								
50	健康観察・本時の振り返り・次時の確認								
機会	指導	1	2	3	4	5	6	7	評価方法
	知	①	②					③	観察・ワークシート
	思			①	②	③	④		観察・ワークシート
単元の評価規準	知識・技能	①定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則があることについて、学習した具体例を挙げている。 ③実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、学習した具体例を挙げている。							
	思考・判断・表現	①ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ②課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ③体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ④体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。							
	主体的に学習する態度	①体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。 ③自己や仲間の課題解決に向けた話し合いに貢献しようとしている。							